

第3回 旭川市民文化会館整備基本計画検討会 会議録（要旨）

会議名 第3回 旭川市民文化会館整備基本計画検討会

開催日 令和6年10月30日（水）
午後1時30分から午後3時10分まで

開催場所 旭川市民文化会館 2階 第2会議室

出席者 参加者 全12人のうち10人出席
（敬称略）大口 優，大谷 薫，鈴川 雄太，西川 祐司，松倉 敏朗，
水野 雅文，南 裕一，宮田 健一，森 禎宏，森 傑

事務局 3人出席
文化ホール整備担当部長，主幹，主査
事務局支援 10人
北海道大学大学院建築計画学研究室

会議の公開非公開の別 公開

傍聴者数 3名

会議資料 別紙のとおり

1 開会

2 議事

進行役：

- ・ 基本構想が大きな目標やコンセプトを定めるものであるのに対し，基本計画は建物の規模や構成といった具体的要素を落とし込んだものである。
- ・ 最終的には，諸室のおおよその面積や大ホールの席数などを整理する必要があるが，これらを整理するためには，誰が，どのように施設を使用するのかという「ソフトとしての活動の在り方」から，そうした活動を実現するための手段である「ハードとしての建物」について考える必要がある。

- ・ これらを議論するための「活動を豊かにする」という視点は、具体的な建設地が決まっていない段階で想像することは難しかった。今般、建設予定地が決まったことから、第3～5回検討会では建設予定地の状況を加味しながら、どのような活動や体験をしたいかといったことを具体的な建物のイメージに結びつけ、議論を進めていく。
- ・ 3回の会議を通して、基本計画の今後ハード面の構成や面積等について決定するための手がかりについて、じっくりと詰めていきたい。
- ・ 初回となる今回は、冒頭に「建築計画の基本」について簡単なレクチャーをさせていただきたい。

2 (1) 学識経験者（森 傑 教授）によるレクチャー（資料1・2）

進行役：

- ・ 「ゾーニング」とは「この敷地（又は建物）におけるこの範囲は、この用途で使う」といったことを定めることで、「動線」は「人がどう動くか」というラインを指す。
- ・ 公共施設の場合、多くの人を訪れるため、全員の動線を個別に考えることは現実的ではない。そこで、「ユーザーゾーン」（施設利用者側の空間）と「サービスゾーン」（サービス提供者側の空間）を最初に定める。
- ・ 図書館であれば開架書庫、閲覧室、視聴覚室、勉強コーナーなどがユーザーゾーンになる。貸出カウンターが接点で、その向こう（事務室や閉架書庫、機械室、給湯室など）がサービスゾーンになっており、互いに混ざり合わない構造になっている。
- ・ 病院であれば、外来受付や診察室が接点となり、こちらもユーザーとサービスが混ざり合わない。
- ・ このように、公共施設のようなサービスを提供する建物の建築計画における基本として、ユーザーゾーンとサービスゾーンの重なりを最小限にすることが重要。可能であれば「接点」とすることで最小となる。重なってしまうと、動線が非常に複雑になり混乱が起きやすくなる。
- ・ 劇場・ホールの場合、客席がユーザーゾーンとサービスゾーンの接点となる。一般的にエントランスホール、ホワイエ、クロック、カフェといった空間はユーザーゾーンとなり、楽屋やリハーサル室といった空間はサービスゾーンとなる。
- ・ こうしたゾーニングを敷地上で考える際に、道路との関係、接道条件が重要となる。サービスとユーザーそれぞれが敷地外から入ってくるので、それらを別の接道面に振り分けられるよう、接道数が多いほうが考えやすい。
- ・ 接道が1面しかない場合は、サービスを地下に潜らせるなどして、ユーザーゾーンとサービスゾーンを分ける必要がある。
- ・ 接道が2面ある場合は、ユーザーゾーンの反対側の接道がサービスゾーンとなるので、ユーザーとサービスの動線を容易に分けられる。
- ・ 接道が3面ある場合は、2面の場合に加え、より選択肢が増えることになる。

- ・ 角地の場合、交差点付近にアプローチを取ることができない点には注意を要するが、各接道にユーザーとサービスを分けることは可能である。
 - ・ 以上のとおり接道条件とユーザー・サービスの振り分けについて考えていくと、敷地におけるおおよそのゾーニングが定まってくる。
-
- ・ 劇場・ホールにおける客席と舞台の構成について説明する。これらは、適した使い方に応じて、いくつか種類がある。
 - ・ 「プロセニウム」は扇型の座席に対して舞台があり、舞台の両袖にスペースがあるという構造で、演劇に適した形であり、また最新技術を用いれば音響的にも問題ないといわれることから、多目的に使える基本的な形として、一般的なホール形式である。
 - ・ 「シューボックス」は舞台・客席が長方形の箱型をした音楽ホールの基本形であり、音響が素晴らしいので、音楽以外の分野で使用しないことが決定している場合には、望ましいホール形式である。
 - ・ 原則として、演劇用ホールはプロセニウム、音楽用ホールはシューボックスということになるが、多くの場合において複数のホールを個別に整備することは現実的に難しいため、多目的型として整備されることが一般的である。
 - ・ ホール形式を問わず、劇場建築には吊物を上下するための構造である「フライタワー」が存在するが、窓なども存在しない構造物が立ち上がる形となるため、景観的な面など様々な面から考慮する必要がある。
-
- ・ 以上のことを踏まえ、本日は、敷地と道路の関係を意識しながら、活動したいこと、あるいは利用者の利便性などを念頭に「動線」と「ゾーニング」について議論していきたい。

2（2） グループディスカッション

（グループA）

◆ アクセス

- ・ 旭川市民の感覚としては、緑橋通が表通りで、永隆橋通は裏通りという印象がある。
- ・ 市役所前バス停は、北側からのバス路線でアクセスする来場者が利用する。また4条通に市内のバス路線が集まっているため、敷地南側からの来場者も多い。
- ・ 買物公園からの来場者を見込んだアクセスを考える必要がある。
- ・ 仮に第三庁舎跡地と現市民文化会館跡地が駐車場になると想定した場合、敷地北側と東側からのアクセスが考えられる。

◆ ユーザー側とサービス側の分け方

- ・ 施設運営者と、文化振興に携わる行政との連携を考えると、総合庁舎が隣接する敷地北側にサービスゾーンを設けた方が良いのではないかと。
 - 文化振興課の執務室を施設内に設置する形でも良い。
 - 施設の運営手法を市の直営とするのか、指定管理にするのか、PFI 等にするのかによって、施設内に行政機能を入れたほうが良いかどうかは変わってくる。
 - どのような管理運営手法を取るにせよ、施設内に運営者の執務室を設けることでコミュニティーサークルの創出などソフト面の充実が図りやすく、文化発信の拠点としての機能も高められるのではないかと。
 - 総合庁舎と施設とで、お互いに連携を取ることができるような文化振興に関する情報交換の場を設けたら良いのではないかと。
- ・ サービスゾーン出口周辺に、公演後の出待ちなどで大勢の人が集まる場合がある。

◆ ギャラリー

- ・ 現状、展示室で入場料が必要な展示イベントは年に 2～3 回であり、入場無料の展示イベントが多い。
 - 有料展示に特化した、閉鎖的なギャラリーとして整備するのではなく、「多目的ホール」という形で整備すれば、有料展示に対応しつつ、幅広い催事が開催可能になるのではないかと。
- ・ 無料展示イベントについては、囲われた場所である必要はなく、例えばエントランスホールや廊下等でも展示できるような設えがあると良い。
 - 金沢市の 21 世紀美術館では、誰でも入ることのできるエントランス部分に天井から吊られたパネル展示があり、有料のものは仕切られたギャラリー内で行われている例がある。
- ・ コストはかかってしまうかもしれないが、展示物が掲示できる可動式のパーテーションなどが設けられると理想的である。

◆ コンベンション

- ・ コンベンション開催時は、通常の大ホール及び小ホールの設えがあれば十分である。また現状、学会を開催する場合は同日に会議室エリアも貸し切って、分科会の会場として利用することもある。
- ・ 現状、大小ホールから会議室エリアへの動線が少し複雑であるが、分かりやすい動線があれば、分科会会場は階が違って問題はない。
- ・ コンベンション開催時、懇親会の会場には近隣のホテルを使用することが多い。
- ・ 現状、数日間にわたるコンベンションの開催期間中、全館利用となるので市民が利用できなくなってしまう。

- ・新文化ホールでは、うまく動線をコントロールすることにより、共用空間において、ベビーカーを押す親子連れから御年輩の方まで、年齢・性別等を問わず多くの一般利用者と、スーツを着たコンベンション関係者とが、違和感なく同居できる光景が理想的である。
- ・コンベンション開催時、エントランスなど多くの人が集まりやすい場所に地元の物産展が催せるようなスペースが確保できると良い。

◆ 搬出入

- ・緑橋通には中央分離帯が整備されており、搬出入用の 11 t トラックが転回するのは困難である。
- ・特に朝晩の通行量が多い 6 条通に面して、大規模なトラックが出入りする搬出入口を設けるのは難しいのではないかな。
- ・搬出入口が一か所に集約されてしまうと、大ホールと小ホールで同時に搬出入を行う際に荷捌きスペースが狭くなり、非常に不便になる。集約する場合は、11 t トラックを 3 台同時に停車できる構造とするなどの工夫が必要。
- ・複数の搬出入口設置を想定する場合、客席から見てステージが南東に位置するよう、大ホールを少し斜めに配置すると良いのではないかな。
- ・敷地南東に搬出入口を設けた場合、交差点付近で搬出入動線と歩行者動線がぶつかる懸念がある。
- ・ギャラリーの搬出入は 4 t トラックで十分であることから、専用の搬出入口を 6 条通側に設置することも可能ではないかな。また、現状は搬出入口が半地下にあるが、利便性を考えると 1 階にあることが望ましい。
- ・永隆橋通は道路が広いので、11 t トラックも通りやすいと考えられる。

◆ その他

- ・現旭川市民文化会館の老朽化に伴う単なる新設ではなく、旭川の文化芸術活動をさらに活性化させる拠点とするため、適切な管理運営手法などソフト面についても、丁寧に検討する必要がある。
- ・平土間の小ホールで、展示室を兼ねている事例もある。
 - 大ホール・小ホール・大会議室・ギャラリーはそれぞれ別個に必要ではないかな。
 - コンベンションでは大小ホールと展示室を同時に使用する場合もあるため、少なくとも小ホールとギャラリーを統合することは難しいように感じる。
- ・公演前後に来館者がくつろげる空間が、冬季や悪天候時にも利用できるよう、屋内外に整備されていると理想的である。
 - 少なくとも 7 条駐車場上部まで使用する必要があると思われるが、建物が敷地のどこまで使用するかによって、整備の仕方も変わってくるように思う。

- ・ ユーザーゾーンとサービスゾーンを完全に分けるのではなく、相互利用を図る考え方もある。例えば、会議室を楽屋としても使用する、又はホール不使用時に楽屋を会議室として使用するなど、サービスゾーンにユーザーが入ることができる事例もある。
- ・ 大小ホールのチケット売り場やもぎりスペースは、必要な場合のみ展開する形式とした方が良いのではないか。
- ・ 現状、市民文化会館のエントランスでは市役所職員や市民が昼食を食べている。
- ・ OM07は高さがあるため、敷地に対して圧迫感を与えるように思う。

(グループB)

◆ アクセス

- ・ 自分が総合庁舎や現旭川市民文化会館を利用する際はバスで来ており、4条通のバス停で降り、そこから歩いて来ている。
- ・ 緑橋通は、道路幅は広いが中央分離帯があるため、車の出入口が限られる。
- ・ 第三庁舎跡地に駐車場を整備した場合、敷地東側からのアクセスが予想され、サービスゾーン側の歩行者の魅力的なアクセスを確保するための工夫が必要である。
- ・ 市民としては、永隆橋通はトラックがよく通っているイメージがある。
- ・ 駅や買物公園、緑道どこからでもアクセスしやすい施設が良い。
- ・ 緑道からのアクセスを考える必要がある。
- ・ 現状、施設前面が緑橋通に寄せて建っているため、車寄せから車椅子利用者がアプローチしやすいようになっている。
→ 車椅子利用者用の車寄せを考える必要がある。
- ・ 総合庁舎西側は、市民文化会館跡地に駐車場を整備する場合、当該駐車場や総合庁舎からの歩行者動線になることが想定される。
- ・ 6条通南西側に観光客がよく使うバス停があるため、搬出入口は東側にあると良い。

◆ 施設の見せ方

- ・ 駅や買物公園側からの施設の見え方を意識したい。
- ・ 駅側からの見え方とともに、緑道からの見え方も意識したい。
- ・ 大ホールを斜めに配置することで、緑道からも駅側からもランドマーク的な見せ方ができるかもしれない。
→ 建物の内部で大ホールが斜めに配置されていても、外から見たらわからないのではないか。
→ 斜めに配置すると、無駄なスペースが出てくる懸念がある。
- ・ 現状、旭川市民文化会館に印象的な外観のイメージはない。

◆ オープンスペース

- ・ かつて旭川市民文化会館の前はオープンスペースで、噴水やガス灯があった。
- ・ 施設の顔をつくる上では、敷地の中に、施設を引いて見るためのオープンスペースが必要かもしれない。
- ・ 総合庁舎側は緑道からのつながりを意識した一体的なオープンスペースを設けたい。
- ・ 駅側から見た施設の顔づくりを考えると、駅側にもオープンスペースが確保できると良い。
- ・ オープンスペースを潤沢に設けてしまうと、建物に必要な面積を圧迫する懸念がある。

◆ 搬出入

- ・ 6条通は通行量が多く搬出入動線には不向きなので、搬出入口は東側に設けるのが良いのではないか。
- ・ 交差点付近に搬出入口があると渋滞につながりやすく、搬出入作業にも支障が出る懸念がある。
→ 搬出入口は敷地の北東側に設けるのが良いのではないか。
- ・ 大ホール・小ホール・展示室でそれぞれ搬出入口を設けた方が便利である。
- ・ 現在、総合庁舎の東側には搬出入の車が多く停まっている。
- ・ 搬出入口には出入りに必要な空間だけでなく、待機するトラックや荷捌きの場所も必要になる。
- ・ 地下駐車場をトラックの搬出入にすることも考えられるのではないか。
→ エレベーターでの舞台道具の運搬にも限界がある。荷物を降ろした後に、なるべく同一階に運搬できる方が便利。

◆ 主催者用駐車場

- ・ 主催者用駐車場は、数十台止められるものが必要ではないか。
→ 地上に確保することは難しく、地下に設けるのが良いかもしれない。

◆ 施設のボリューム感

- ・ 総合庁舎側の死角になる部分にフライトワーを配置すると良いのではないか。

◆ 屋根・庇

- ・ 現旭川市民文化会館に行く際に総合庁舎の庇の下を通っている人もいる。
→ できるだけ雨・雪に当たらないで施設にアクセスできる屋根・庇があると高齢者にとっても便利になるのではないか。
- ・ 屋外まで行列ができることもあるので、屋外での待ち時間を快適に過ごせるよう屋根があると良い。

◆ その他

- ・ 新しい施設では、現状よりも機能が増えることが考えられるので、より多くの人が来館することを想定する必要がある。
- ・ 冬は沿道に雪山ができることで、敷地内外からのアクセス経路が限られてしまうことがある。
- ・ 搬出入のしやすさを考慮すると、小ホールを大ホールの北側に配置すると良いのではないかな。

進行役：

第4回検討会では、本日議論したことを整理した資料を見ながら、建設予定地周辺の現地見学を行う。その後、平面的にプランを考えるだけでなく、階層など垂直的にも考えていきたい。

3 閉会